



尺八の天才、長洲町出身の吉田晴風をご存知ですか。

日本を代表する尺八奏者であり邦楽作曲家の吉田晴風は、長洲町出身で宮城道雄作曲の「春の海」を初演したことで知られています。

その偉大な功績を多くの町民に知っていただきたいという思いから晴風生誕の地である「長洲町」で邦楽演奏会を開催します。

出演は、2007年文化庁芸術祭大賞受賞、翌年、芸術選奨文部科学大臣賞受賞、2020年には秋の褒章にて紫綬褒章を受章した琴古流尺八奏者の善養寺恵介氏と生田流地歌箏曲演奏家の岡村慎太郎氏、同じく生田流箏曲演奏家の河原抄子氏が、晴風ゆかりの曲を演奏します。晴風の足跡を辿り、名曲の数々と素晴らしい演奏をご堪能下さい。

吉田晴風メモリアル

邦楽演奏会

とき 令和五年十二月十四日(木)

午後二時〜三時

ところ ながす未来館 文化ホール

(出演) 善養寺恵介・岡村慎太郎・河原抄子

入場無料 どなたでも入場できます。

※当日は町内の中学生も鑑賞しますので、それ以外の席で自由に鑑賞できます。



吉田晴風とは…

吉田晴風は、明治24年(1891年)8月5日長洲町新山生まれ、本名は康次、7歳のときに父を亡くし、母の手ひとつで育つ。

幼少の頃より尺八に親しみ、学校の成績は、長洲小学校を卒業するまで主席で通す。熊本商業学校に進み、在校中、東雲座で催された「東北地方大飢饉救済慈善音楽会」の三曲合奏の妙音に魅せられ、尺八に熱中、卒業後朝鮮に渡り、箏曲演奏家の宮城道雄氏を見出す。大正4年、琴古流鳥居若菜に師事するが、洋楽と握手を志す晴風と、伝統主義の鳥居との違いから独立、日本音楽学校、尺八科の講師となる傍ら、洋楽も学ぶ。やがて、宮城道雄氏を朝鮮から呼び寄せ、2人は提携して、盛んに演奏活動をする。戦後一度、長洲町の長栄座で郷土訪問演奏会を開催。昭和25年6月30日、惜しくも60歳で死去したが、邦楽壇に偉大な足跡を残した。



河原 抄子



岡村 慎太郎



善養寺 恵介

生涯学習課 ☎78-3276